

平成 23 年度農業活性化プラン推進事業実施状況

- | |
|--------------|
| ◆◆◆ 項 目 ◆◆◆ |
| 1 農産物の高付加価値化 |
| 2 販路開拓 |
| 3 人材育成 |
| 4 地産地消 |
| 5 食育推進 |
| 6 環境保全 |

1 農産物の高付加価値化

1 ナノミストによる果実鮮度保持研究事業

- (1) 目的 地元企業が開発した高湿度を発生するナノミスト機械装置を導入し、果物（ルレクチェ・シャインマスカット等）の鮮度を保持することで他産地の出荷時期より遅らせ高付加価値化を図る。
- (2) 実施日 平成 23 年 11 月 1 日から
- (3) 設置場所 渡辺果樹園（渡辺康弘氏）三条市井戸場 1 4 3
- (4) 構成員 にいがた南蒲農業協同組合、大島園芸振興協議会、(株)コロナ、三条市
- (5) 内 容 平成 21 年度はシャインマスカット、平成 22 年度はルレクチェとシャインマスカット、平成 23 年度もルレクチェとシャインマスカットで実施。平成 23 年 11 月から平成 24 年 2 月 3 日まで鮮度保持実験し、2 月 1 日～3 日に東京ビッグサイトで開催される「スーパーマーケット・トレードショー」に出展する。

2 販路開拓

1 荒川、横浜・三条交流活動事業

- (1) 目的 荒川区・横浜市の学校給食に採用してもらうため、稲刈農業体験及び食育体験を実施し、三条産米の販路開拓を図る。
- (2) 実施日 9 月 10 日(土)・11 日(日)、9 月 17 日(土)・18 日(日)
- (3) 会場 川通地区
- (3) 参加者 荒川区立第 2 峡田小学校児童 50 名、横浜市立上寺尾小学校児童 42 名、農林課、営業戦略室
- (4) 内 容 コシヒカリ収穫体験を実施
三条産コシヒカリの「おいしくて・安心、安全」の PR について
学校給食への採用実績
 - ・第 2 峡田小学校 精米 1,380kg
 - ・浅間台小学校 精米 440kg

- ・ 汐入小学校 精米 840kg
- ・ 第3 峽田小学校 精米 300kg
- ・ 調布市立滝坂小学校 精米 690kg

2 中国向け新潟米輸出促進協議会 中国内ホテル・レストラン等流通関係者招へい事業

- (1) 目的 中国向け新潟米輸出促進協議会（新潟県、新潟市、上越市、三条市、新潟県農業中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部で構成）及び日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易センターが主催し、中国における新潟県産米や加工食品の販売拡大に向け、中国のホテル・レストラン関係者を新潟県に招へいし、米や加工食品の提案や安全・安心な生産体制等のPR等を行う予定であったが、3.11地震により中国への輸出が不可能となった。

3 第45回2012スーパーマーケット・トレードショー

- (1) 目的 地元企業が開発した高湿度を発生するナノミスト機械装置を導入し、平成23年11月から平成24年2月3日まで鮮度保持実験し、2月1日から3日間、東京ビッグサイトで開催される「スーパーマーケット・トレードショー」に職員を派遣し、情報収集を行わせた。
- (2) 派遣日 平成24年1月31日(火)～2月3日(金)
- (3) 実施日 平成24年2月1日(水)～3日(金)
- (4) 会場 東京ビッグサイト
- (5) 参加者 2人
- (6) 内容
- ア 主催は(社)日本セルフ・サービス協会。食品スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信するプロ向けの専門展として、2012年で45回目開催となる。
 - イ ナノミスト発生機械を導入して鮮度保持実験した果物（ルレクチエ・シャインマスカット（ぶどう）等）を出展する。
 - ウ 果物の鮮度を長期間保持し、他産地との出荷時期を調整することで差別化を図り、販路開拓の可能性を探る。

3 人材育成

1 優れた農業経営者育成事業（認定農業者確保事業）

- (1) 目的 優れた農業経営者を育成するため、意欲的な農業経営を目指す農業者が農業経営改善計画を作成・申請し市長から認定を受けた認定農業者を確保する。
- (2) 実施状況 平成23年3月31日現在 認定農業者数 495
平成24年2月10日現在 認定農業者数 480

2 特定農地貸付け法によるしみん農園事業を支援

- (1) 目的 主に都市住民が野菜や花等を栽培して、自然にふれ合うとともに、農業に対する理解を深めること等を目的に熊倉睦が行う特定農地貸付けの実施・運営に関し必要な支援を行う
- (2) 実施日 平成23年4月1日(金)～平成23年12月31日(土)

- (3) 会 場 三条市棚鱗「熊倉睦農園」
- (4) 対 象 者 農業に関心がある市民及び市外住民
- (5) 内 容
 - ア 1区画 100㎡ 3,500円/年
 - イ 春野菜・秋野菜の植え付け・中間管理収穫等指導
 - ウ そばの種まき等
- (6) 参加者数 22区画、20人

3 みんなで農業体験講座(生涯学習課・中央公民館・農林課・都市計画課みどりの相談所共同事業)

- (1) 目 的 農業未経験者に農業を体験する機会を提供し、参加者とともに農作物の収穫の喜びを味わってもらい中高年の生きがいを支援し、もって遊休農地の解消を図り社会貢献につなげる。
- (2) 実 施 日 平成23年4月17日(日)～平成23年11月13日(日)
- (3) 会 場 三条市井栗「佐藤農園」
- (4) 対 象 者 市内にお住まいで指定する農地まで自らの手段で移動できる40歳以上の方
- (5) 内 容
 - ア 定員20人 1区画50㎡ 4,000円/年 2区画まで可
 - イ 9回の学習講座(収穫祭を含む)
- (6) 参加者数 28区画28人

4 地産地消

1 給食における三条産品利用促進打ち合わせ会

- (1) 目 的 学校給食に使用する地元農産物の必要数量の調整及び利用拡大を図る。
- (2) 実 施 日 毎月1回
- (3) 会 場 嵐南学校給食共同調理場
- (4) 参 集 者 生産者、三条地域振興局農業振興部(普及指導員)、JAにいがた南蒲各地区担当者、学校給食共同調理場長、学校給食共同調理場学校栄養職員各地区担当者、青果物納入業者各地区担当者、農林課及び健康づくり課食育推進室担当者 17人
- (5) 内 容 学校給食や保育給食で使用する地元産野菜等の使用計画に基づく打合せ、農産物の生育状況の確認、目合わせ(規格検討)の実施 ほか
- (6) 使用品目 36品目

2 しみん朝市支援

- (1) しみん市仲間の会役員会
 - ア 日 時 平成23年9月20日(火)
 - イ 出席者 出店者 8人
 - ウ 内 容 しみん朝市大感謝際及び役割分担等について

(2) しみん市仲間の会総会及び意見交換会

ア 日 時 平成 23 年 4 月 7 日(木)

イ 出席者 出店者 26 人

ウ 内 容 22 年度事業報告・会計決算報告、23 年度事業計画・会計予算、規約改正、
しみん朝市の再開について、意見交換会

(3) 開催日 5 月 22 日(日)～12 月 11 日(日)まで

12 月 18 日(日)～3 月 25 日(日)の予定

三條機械スタジアム事務室前ロビーで規模を縮小して開催

(4) その他

ア クリーンデー・・・5 月 15 日(日)三條機械スタジアム 1 塁側スタンド脇噴水広場及び歩道側
の草取り

イ お盆市の開催・・・8 月 13 日(土)午前 6 時から

ウ 初回のお楽しみ抽選会は来場者 390 人

エ 毎月月末にはお楽しみ抽選会及び 1 塁側スタンド脇噴水広場及び歩道の草取り

オ しみん朝市大感謝祭を 11 月 13 日(日)に開催。豚汁のサービスを行う。来場者 340 人

3 しただ郷交流拠点検討委員会

(1) 目 的 下田地域の経済の活性化、交流人口の増加及び雇用機会の増加を図るため、道の駅を核とした交流拠点づくりについて各部会を設置し、体制を整備して検討行う。

(2) 部 会 農家レストラン検討部会、農産物直売所検討部会、農産物加工施設検討部会

(3) 内 容

ア 農家レストラン検討部会（運営委員会）

① 基本コンセプト作成

② 運営組織の検討

③ 情報機能の検討

イ 農産物直売所検討部会

① 道の駅全体構想について

② 取扱商品の枠組みについて

③ 投資プランについて

ウ 農産物加工施設検討部会

① 加工所のあるべき姿の検討

② 道の駅の中での役割の検討

③ 取扱商品の検討ほか

4 しただ郷道の駅直売推進協議会

- (1) 目 的 しただ郷道の駅直売推進協議会が主催する直売所を4月から11月まで毎週土日開催し、しただ地域のPRと地産地消を図る。
- (2) 実施日 平成23年4月24日(日)～11月27日(日)の土・日・祝日に実施
- (3) 会 場 交流促進センター庭月庵「悟空」駐車場
- (4) 参加者 64名
- (5) 総売上額 12,331,430円(74日間)

5 食育推進

1 次世代農業教育事業(学校教育田維持管理事業)

- (1) 目 的 農業並びに米に対する教育的理解を深めてもらうとともに、学校教育の一環として田植・稲刈等の現地指導、体験学習、観察記録等に取り組み、日本型食生活の定着、普及啓発を図る。
- (2) 実施期間 平成23年4月1日～12月31日
- (3) 実施実績 市内小学校22校、面積101a
- (4) 対象地区 三条・栄・下田地区

2 食育推進室主催各種事業

6 環境保全

1 環境保全型農業

- (1) 目 的 安全安心の農産物生産を目的とする。
- (2) 実施時期 平成23年度
- (3) 場 所 市内全域
- (4) 内 容 化学合成資材3割低減栽培 2,363ha、化学合成資材5割低減栽培 507ha、有機栽培 30ha

2 田んぼの生き物調査（農地・水・環境保全向上対策の取組みを含む）

(1) 目的 次代を担う子供たち或いは環境に関心ある市民が身近な水田環境に生息する生き物の実態を学習し将来の環境保全に資することを目的とする。

(2) 実施状況

実施場所	実施日	参加者数
西中	6月19日(日)	35人
金子新田	7月31日(日)	27人
下大浦	7月23日(土)	15人
中谷地	6月19日(日)	30人
大浦	7月23日(土)	26人
大島	8月6日(土)	67人
戸別所得補償環境支払 取組者 市内一円	6月～8月	21人 有機15人 冬期湛水 6人

(3) 内容 親子・地域役員が水田や農業用排水路等の生き物を調査し、環境の実態を調査した。